

「生きる力を育む阿中教育の創造」

学力向上推進員	委員	校長 林 献司	教諭 沖野 真	教諭 栗田ひとみ	教諭 幸田明美
多田 利行		教頭 吉岡日出利	教諭 樹田真理	教諭 和泉淳子	
		教頭 谷中英昭	教諭 兵庫悠生子	教諭 築地靖幸	

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 多くの生徒は学習に対してまじめである。また音読や、発表など表現することを好み、方法や手順がわかる学習にもまじめに取り組む。	毎日の朝自習や授業を大切に、各教科の基礎的、基本的な内容の習得に意欲的に取り組むことができる。	「授業の内容がだいたいわかる」の「強く思う」と「そう思う」生徒を80%にする。			
課題 基礎・基本的な内容が定着していない生徒が多くみられる。同じことの繰り返しで苦手な生徒が多く粘り強さがない。	具体的方策(教員の取組) ①「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の定着を図る。 ②毎朝のセミナーで基礎的知識の習得を図る。 ③長期休業中の各学年による補充学習(質問教室)を実施する。	取組指標 ①家庭学習を「毎日1時間以上している」を50%以上にし、「全くしない」を0%にする。 ②毎日継続し、授業に合った進捗を保つ。 ③長期休業中に3日～5日実施する。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 授業中の発表にはまじめに取り組んでいる生徒が多い。またレポート等をまとめたりすることはできる。	読む・書く・発表する活動に意欲的に取り組み、自分の考えをまとめたり、人に伝えたりできる。	「学習した内容をまとめたり、人に伝えたりできる」の「できる」を70%にする。			
課題 既習の知識が系統的でないため、自分の課題や目的に応じて、聞いたり、まとめたりする力や、論理的に説明する力に課題がある。	具体的方策(教員の取組) ①読書週間の設定。 ②授業力向上の研修を行う。	取組指標 ①2ヶ月に1度、朝自習を読書タイムにする。 ②年間通じて授業参観(T.T)を実施。 ③「授業が工夫されていて楽しい」生徒を80%以上にする。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 自主学習ノート「がんばりノート」が定着しつつあり、家庭学習率にも若干の上昇がみられた。また、授業の準備物を用意する習慣も身につけている。	「がんばりノート」を自主学習や家庭学習に積極的に活用し、学習習慣を身につけ、自分の学習方法を確立することができる。また、ノーチャイムで自主的に着席し、授業の準備物を確実に用意することができる。	①「がんばりノート」の活用率90%を目指す。 ②「ノーチャイムで自主的に着席ができてい」る」「授業の準備物を忘れないようにする」を90%以上にする。			
課題 「がんばりノート」の使用が形式化・非効率化し、必ずしも学力向上に直結しているとはいえない。また、全体的に教師が呼びかけないと着席しようとしなない。一部、時間を守れない者や、忘れ物が多い者もいる。	具体的方策(教員の取組) ①「がんばりノート」コンテストを実施。 ②ノーチャイムで生活ができるように指導する。	取組指標 ①学期ごとに表彰し、ノートマスターの称号を贈る。 ②「始業時間とともに授業が始められるように工夫している」を100%にする。		評価	次年度における改善事項

平成28年度 学力向上ロードマップ

